

産官学民の特性を活かした新たなファッション都市再生事業の構築

ファッション美術館を拠点としたデザイン教育

CONSTRUCTION OF THE FASHION URBAN REGENERATION PROJECTS UTILIZED THE CHARACTERISTIC OF EACH FIELD Design Education Based on Fashion Museum Perspective

見寺 貞子	デザイン学部ファッションデザイン学科	教授
野口 正孝	デザイン学部ファッションデザイン学科	教授
安田 雅子	デザイン学部ファッションデザイン学科	教授
橋本 英治	先端芸術学部まんが表現学科	教授
ばんば まさえ	デザイン学部ファッションデザイン学科	准教授
久慈 達也	元・図書館研究員	
百々 徹	神戸ファッション美術館学芸員	

Sadako MITERA	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Professor
Masataka NOGUCHI	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Professor
Masako YASUDA	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Professor
Eiji HASHIMOTO	Department of Image Arts, School of Progressive Arts, Professor
Masae BAMBA	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Associate Professor
Tatsuya KUJI	Library, Former Researcher
Toru MOMO	Kobe Fashion Museum, Researcher

要旨

神戸市は、全国に先駆けて「ファッション都市宣言」(1973年)を行い40年が経過しようとしている。その間、ファッションタウンの建設、地の利を生かした観光やイベントを積極的に推進し、振興の拠点として神戸ファッション美術館(1997年)を開設した。しかし、1990年代以降の世界的不況や阪神・淡路大震災の被害を受け、ファッション産業も低迷の一途を辿っている。兵庫・神戸が抱えるファッション産業の低迷に、デザイン大学がコーディネート役を担い、ファッション美術館の知財を生かした産官学民のネットワークが組めないかと考えた。本研究は、ファッション美術館をファッション都市神戸の知財終結の場と捉え、12年度実施した内容を報告する。

Summary

Kobe Declaration "fashion city" ahead of 40 years is trying to make progress (1973) across the country. In the meantime, the construction of the Fashion Town, actively promoting tourism and events utilizing the geographical advantage, was established (in 1997) as a base for the promotion of Kobe Fashion Museum. However, the victims of the Great Hanshin-Awaji Earthquake and global recession since the 1990s, has also steadily sluggish the fashion industry. The construction network of people from industry, government and academia peoples by our university as a responsible for coordination role which utilizing the intellectual property of Fashion Museum was proposed. Here we report the conclusion of the intellectual property field results and captured the role of Kobe City Fashion Museum in 12 years periods.

1) 目的

神戸市は全国に先駆けて「ファッション都市宣言」（1973年）を行い40年が経過しようとしている。その間、ファッションタウンの建設、地の利を活かした観光やイベントを積極的に推進し、振興の拠点として神戸ファッション美術館（1997年）が開設された。しかし1990年代以降の世界的不況や阪神・淡路大震災の被害を受け、ファッション産業も低迷の一途を辿っている。兵庫・神戸が抱えるファッション産業の低迷に対し、デザイン大学がコーディネーター役を担い、ファッション美術館の知財を生かした産官学民のネットワークが組めないかと考えた。

本研究は、ファッション美術館をデザイン教育の視点から再考し、ファッションデザイン分野の情報収集と発信の場と捉えるとともに産官学民の特性を活かした新たなファッション都市再生事業構築に一助になることを目指す。本報では12年度の活動報告を行う。

2) 12年度の活動

2-1 ファッション研究会の設立

関西の研究者と産業界人、報道関係者で「ファッション美術館知財活用委員会」（仮称）を設置し、本館の活用及び情報交換の場として定例会を設けた。

場所：神戸ファッション美術館4階セミナー室

日時：8回：18：00～20：30

2011年3月18日、6月10日、8月5日、8月22日、
2012年2月4日、2月11日、3月9日、3月24日

参加者：青木美穂子氏、安城寿子氏、安積久義氏、井上雅人氏、大江由佳梨氏、川野佐江子氏、徳山孝子氏、中村茂氏、平芳裕子氏、終伸江氏、百々徹氏、森下千春氏、見寺貞子

神戸ファッション美術館（写真1）の百々徹氏から「日本の洋装化について考える十年」プロジェクトの設立が提案された。神戸・三ノ宮の東遊園地には1972年の洋装化100周年を記念して建てられた石碑があり、そこには「日本近代洋服発祥の地」の碑文が刻まれているとの事。これは1872年11月12日に発令された太政官布告373号に

より文官の大礼服が正式に洋装となったのを受け、その年を日本の洋装化元年としたものである。この1872年の洋装元年から140周年を迎える2012年から150周年となる2022年までの10年間、神戸ファッション美術館を結節点として大学や専門学校などの各種教育機関や研究機関、個人の研究者などが共同して日本の洋装化にまつわる様々な事象を取り上げ、情報交換をしながらそれぞれ研究を深めていき、その成果をさまざまな形で発信していくことを旨とするものである。この案に関し全員が賛同し、研究会を進めていくこととした。



写真1) 神戸ファッション美術館：神戸ファッション協会資料引用

2-2 ファッションセミナーの開催

「これから衣服にできること」をテーマに神戸ファッション美術館4階セミナー室で以下の内容で実施した。3名の講師からは今後のファッションデザインの行方を各々の視点から講義していただいた。

・2011年10月15日

成美弘至氏「スローファッションの挑戦」

・2011年11月19日

岡雅子氏「エコロジー発想から生まれるデザイン」

・2011年12月17日

藤原大氏「可変速化するモノ作り」

2-3 ファッションの学生作品合同発表展の実施

神戸ファッション美術館で各大学間の学生作品を一堂に展示する機会を設けた（写真2～5）。学生たちが制作した作品を募り、学校ごとの方針や特色も知ってもらうとともに作品を通じての情報交換の場となることも期待した。

- ・開催期間：2012年6月7日（木）～23日（土）
- ・開催場所：神戸ファッション美術館 1階エントランスホール
- ・参加校：大阪樟蔭女子大学、京都造形大学、神戸芸術工科大学、神戸松陰女子学院大学、神戸ファッション造形大学



写真2) ファッションの学生作品合同発表展の準備



写真3) ファッションの学生作品合同発表展の準備



写真4) 本学学生の作品発表の様子



写真5) 教員による合同講習会

2-4 ファッション美術館を活用した取り組み

2-4-1 オールドコレクションをモチーフにしたハンカチーフの制作（写真6）

ファッションデザイン学科ばんばまさえ教員によるワークショップ。神戸ファッション美術館ライブラリーにあるオールドコレクションからテキスタイルデザインを選んで加工しハンカチーフを制作する。過去の様々なテキスタイル資料を閲覧し、現代のデザインとして再生できそうなものを選択し、ハンカチーフとして再生させることでテキスタイルデザインについての知識を深め、パソコンによる加工やインクジェットプリンタの使用方法を含めたデザインワークの基礎を学ぶ。

対象学生：テキスタイルデザインコース2回生16名

制作方法：

- ①オールドコレクションから現代のテキスタイルとして再生可能と思われるデザインを100点程度抽出する。
- ②学生一人につき1点のデザインを選ぶ。
- ③ハンカチーフにできるデザインに色や形などを変更し加工する。
- ④インクジェットプリンタでハンカチーフにプリントする。



写真 6) オールドコレクションをモチーフにしたハンカチーフ

2-4-2 ライブラリーの活用

ファッションデザイン学科ファッションデザインコースの授業では、3回生の演習授業でライブラリーを活用する。デザインの歴史を調べ過去の様々なファッションデザインの資料を現代のデザインとして再生し、デザイン手法の基礎を学ぶ。

3) 今後の活動

- 3-1 ファッションデザイン教育分野における共有カリキュラムの検討及び実施
- 3-2 ファッション美術館の知財である保存品（衣服、テキスタイル、服飾雑貨など）に関する学術的研究の推進
- 3-3 洋装化150年に向けてのシンポジウムの開催
- 3-4 アジア地域の保存衣服・服飾雑貨の公開セミナー
- 3-5 ファッション美術館を活用したアート&デザインプロジェクトの提案

3-6 ファッションデザインを学ぶ学生たちの合同展示会の開催

3-7 地場産業を活用した作品の展示発表会

23年度は、ファッション美術館の活用について、大学間での情報交換と教育機関がなし得ることを企画し実施した。実施内容を検証し、今後は産業界も参画できる内容を企画提案したい。

共同研究者

瀬能 徹 デザイン学部 ファッションデザイン学科
准教授

山崎 均 デザイン教育研究センター 教授

曾和具之 デザイン学部 プロダクトデザイン学科
准教授